

# 磐田西高生の今

西高生の

## 新聞投稿 編

令和4年1月1日～令和5年3月31日



令和5年4月1日

静岡県立磐田西高等学校

中日新聞より記事の利用許諾を受けています。

無断使用・転載不可。



中日新聞 2022年1月6日  
21HR 北浜東部中出身

## 未来 私たちの選択次第

長谷川紗英

磐田西高2年

時代はどんなことが起きようとも、移り変わっていくものである。2022年4月、私たちの年代から成人年齢が18歳になる。すでに選挙権も与えられ、日本を担う若者世代だと認識されている。

しかし、私は社会の現状や仕組みなど知らないことの方が多い。現在の私が情報を収集するとなると、インターネットがほとんどだ。インターネット上には正確な情報と、デマ情報が混在しているという。

だからこそ、高校生のうちにしっかり日本が抱える問題を考え、それを改善してくれる人を想像することが大切だ。

今、コロナによる失業者増加や環境問題、超高齢社会などたくさん抱えている。国民全体が、見えない未来に不安を感じている。日本をより良い国にするのも、生きやすい未来をつくるのも私たちの選択次第ということをお忘れずに生きたい。

中日新聞 2022年1月18日  
21HR 鷺津中出身

## 上級生の大変さを実感

渡辺 将伍

磐田西高2年

私の剣道人生は今、最も充実しているところにあると思います。つらい事、楽しい事、逃げたくなる事などさまざまな出来事がひんぱんにやって来ます。

その中で稽古は、私にとってとても価値のあるものだと感じています。3年生が引退して、2年生である私たちが中心となり、上級生の大変さを実感しました。

そして、このことを実感した私は、「絶対に乗り越えてさらに成長するんだ」と決意を新たにしました。年が明けた1月には「全国選抜大会」をかけた静岡県予選の大会が開かれる予定になっています。

その大会で私たちは優勝を目指しており、そのためにやるべきこと、十分な準備をしようと思っています。大会までの残り少ない期間を必死になって過ごし、目標を達成したいです。そして剣道人生を悔いのないものにしたいです。

中日新聞 2022年1月10日  
22HR 森中出身

## チャレンジ大好きな父

野口 真未

磐田西高2年

私には自慢の父がいます。誰に対してもフレンドリーで気遣いができて運動神経も抜群です。そんな父が最近、ロードバイクに夢中になっています。

きっかけは新型コロナウイルスにより自由に外出できなくなったときに、友人に誘われたからです。

最初は、少し走ってみようという軽い気持ちで始めましたが、走れるようになるにつれ

て楽しくなり、今では週末は丸一日遠くまで走りに行っています。

「用具を揃えるのはめんどろ」と言っていたけれど、今はさまざまなパーツを自分好みにカスタマイズして自分だけの自転車を作っています。父はロードバイク以外にも、バレーやソフトボールを楽しむなど誘われたらやってみようというチャレンジ精神が旺盛です。

私は積極性がなくあきらめてしまうことも多くありますが、父を見習い、挑戦できる人になりたいです。



中日新聞 2022年2月10日

21HR 豊田南中出身

## 幸せな人生を目指して

山口 祥歩 磐田西高2年

幸せって何だろう。おいしい物を食べているとき。好きなことに打ち込んでいるとき。友だちと遊んでいるとき。幸せを感じる時は、人それぞれ違う。

同じように同じことをしていて、片方の人は幸せを感じているとは限らない。人って難しい、生きるって難しいと思う。けれど、人と関わらず生きていけることなんてないから、その中で少しずつ幸せを見つけていけたらいいなと思う。

私が幸せを感じる時は、家で飼っている犬とふれ合っているときだった。でも1年前に死んでしまった。犬は生きものなので当然寿命がある。私たち人も例外ではない。ただ犬は人より寿命は短い。「当たり前の日々なんてない」とも思った。

いつも通りの明日が来るとは限らない。日々を精いっぱい過ごして、その日々の中で幸せを積み重ねて、最後には幸せな人生だったと思えるようにしたい。

中日新聞 2022年2月19日

32HR 豊田南中出身

## 18歳成人 善悪判断大切

月舘 緩人 磐田西高3年

民法が改正され、2022年4月から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられる。改正によって売買契約などの法律行為が親の同意なしでできるが、未成年者取消権が使えなくなる。

立ち止まって考えてほしい。なぜ国は成人年齢を引き下げるのか。私はこう思う。法律行為に伴う責任をわかってもらうため

だと思う。18歳にもなれば奨学金や給料などで大きなお金を扱う人も多くなる。何がOKで、何がNGかを判別できる能力が必要だろう。この改正はその能力を付けるためのきっかけになるのではないか。

確かに未成年者取消権は未成年者を悪質商法から守る不可欠な権利だ。だが、契約における善悪の判別能力を乏しくさせる。この改正は判断能力の大切さを、未成年者に伝える国からのメッセージでありチャンスなのだと思う。



中日新聞 2022年4月1日

35HR 竜洋中出身

SDGsの中で最も関心があるのは「平和と公正を全ての人に」です。ロシアとウクライナが紛争状態にあることが、とても恐ろしく悲しい気持ちになりま

す。  
第二次世界大戦後、国連

## 平和の尊さ 広島で知る

村田 夏葉 高校生

(磐田市)17歳

などが中心になってさまざまな平和活動がされてきました。ですが、急変してしまったことが悲しい。「このまま事態が悪化すれば、米国などもウクライナを支援している日本も戦争に巻き込まれるのではないかと恐ろしさを感じます。」

「もう二度とこんな恐ろ

しいことをしてはならない」。中学生の時に参加した広島平和記念式典で被爆者の切実な願いを聞き、改めて戦争の恐ろしさと平和の尊さを知りました。

ロシア軍によるウクライナ侵攻でも、兵士だけでなく多くの市民が亡くなっていきます。戦争がなくなり、世界が平和になってほしいと強く思います。

中日新聞 2022年4月2日

35HR 磐田第一中出身

SDGsの中で関心のあ

る目標は「貧困をなくせ

う」です。

世界では六人に一人の子

どもが「極度にまずしい暮

らし」をしていて、特に南

アジアやアフリカで多いよ

うです。

教育を受けられずに働い

## 世界の貧困なくしたい

頼貴 由羽 高校生

(磐田市)17歳

たり、栄養失調や医療が受

けられず病気に苦しんだり

する子どもたちがたくさん

います。

小学二年のいどに将来

の夢を聞くと「お金をなく

したい」と言い、理由は

「みんな幸せになるから」

と答えました。また小さい

のにそんなふうに感じてい

ることに驚き、もっと助け

たいという思いが強くなり

ました。

世界ではさまざまな団体

が、募金活動や教育支援な

どを行っています。私が今

できることは限られます

が、いつか現地で活動して

一人でも多くの人を笑顔に

したいです。



中日新聞 2022年4月4日 土井 寧々  
33HR 向陽中出身

磐田西高3年

世界では争っている地域がある。最近ではロシアのウクライナ侵攻、またアフガニスタン紛争など、さまざまな国や地域で争いがあり、再び平和が叫ばれている。

平和とは何なのか。私は争いもなく皆が平等で公正な世の中のことだと思う。ただ調べていくと、平和には消極的平和と積極的平和という二つの平和が存在していることが分かった。私はその中で積極的平和が大切だと思う。

積極的平和とは貧困、抑圧、差別などの構造的暴力がない状態のことである。消極的平和は、単に戦争がない状態を平和と捉えることである。でも実際、戦争がなくなったとしても、まだまだ多くの課題があり全ての人が平和で公正とは言い難いだろう。

今できることは、まず起きている事柄について知る。募金などに参加することだと思う。一人一人が行動すれば何かが変わるはずだ。早く積極的平和な世界になることを願っている。

公正な平和世界を願う

中日新聞 2022年4月9日  
33HR 浜松南部中出身

## 平和の尊さ 再認識して

原田 輝 磐田西高3年

持続可能な開発目標 (SDGs) で平和や公正という目標を掲げた今の世界で、戦争が起きている。ウクライナへの軍事侵攻が開始してから、毎日犠牲者が出ている。

世界が掲げた持続可能な開発目標を無視してこのような出来事が起きているということは、あまりにも無責任だと感じる。

犠牲者の中には若い子どもやお年寄りもいる。平和と公正が与えられるどころか、若い子どもからお年寄りまで多くの人が平和と公正を奪われる事態となっている。

このようなことは絶対にあってはならない。いま世界で起きている事実によどの国も目をそらしてはいけない。

自分が生活している環境は決して当たり前ではないこと、この地球上で戦争が起りたくさんの人が犠牲になっていることを、世界中の一人一人が意識する必要がある。平和というものの尊さを改めて認識するべきである。



中日新聞 2022年4月7日

33HR 磐田南部中出身

## 貧しい子の教育に支援

米沢 桜花

磐田西高3年

日本では小・中学校の9年間で義務教育で、誰もが当たり前で教育を受けることができる。その一方で世界には紛争や戦争などにより学校に通えない子供たちが約1.2億人もいるとされる。私たちが紛争や戦争を止めることは難しい。

しかし、貧しい子どもたちが教育を受けられるように支援をしたり募金をしたりすることならできると思う。例えば、使わなくなったランドセルを貧しい子どもたちに寄付するという取り組みがある。

自分には必要のなくなったものを、必要としている人に渡すことができる素晴らしい取り組みだ。私たちが一番最初でできることは、この貧困問題についてより多くの情報を集め知ることだと思う。

また、自分が教育を受けられていることに感謝し、授業を大切にしていきたいと思っている。

中日新聞 2022年4月22日

35HR 磐田南部中出身

## 性別とらわれぬ世界を

古里 千夏

磐田西高3年

世界には同性婚が認められている国が、アメリカやポルトガル、スペインなど欧米を中心にあります。しかし日本では認められていません。私は「LGBTQ」がテーマのひとつである海外ドラマや映画をよく見ます。ドラマに描かれているこうした人々には、さまざまな苦勞や悲しみがあ

り、それを乗り越える強さを持っていることを感じました。全ての国で、性別にとらわれず自分が愛する人と結婚できる世の中が早く実現することを願っています。

また、発展途上国の地域を中心に、女の子がお金のために売られてしまったり、女性や子どもの地位が低かったりと、私の身近な生活ではとても考えられないような悲しい現実があります。

私も1人の女性としてジェンダーに関するデモ行進にいつか参加したいと考えています。そのためにも知識と理解を深めたいです。

中日新聞 2022年4月19日

31HR 福田中出身

## 祖父母訪ね 会話増やす

伊藤 香穂

磐田西高3年

私の祖父母は、私の家から歩いて10分の所に住んでいます。小さい頃は毎日遊びに行っていました。高校生になった今では忙しいこともあり、月に1回ほどしか行っていません。連絡を取る頻度も少なくなりました。

私は家庭科で高齢化社会について学んで、改めて祖父母をもっと大切にしたいと思いました。特に用事がなくてもよく電話をすれば、振り込め詐欺などの犯罪を防止することができると思うし、毎日ではなくても家に会いに行けば、ちょっとした異変に気づいて、病気やけがの早期発見ができるかもしれません。

高齢者は孤独を感じやすかったり自信を失ったりすることも知りました。これからはもっと家に会いに行きたくさん話したいです。そして自分の親が高齢者になった時には、自分を育ててもらったぶん、しっかり介護したいです。



## 母に感謝伝えられず…

前原 一花

磐田西高3年

私は1日1度は母と言い合いをしてしまいます。その原因は、自分が悪かったりお互い疲れて帰ってきて言葉の口調が強くなって、言い合ったり、家事のやり方の違いでもめたりしてしまいます。

お互い折れることなく、時間がたってからどちらかが謝ります。なかなか素直になれなくて、母が寝てからスマートフォンでメッセージを送って朝謝る時もあります。

自分が素直になって大きな心で受け止めればいいと分かっているのに、疲れて帰って来た母を毎日のように怒らせてしまったり、母には今まで育ててもらって、感謝をしなければいけないのに、「ごめんね」という気持ちが、本当はすごくあります。内心では分かっているけど、口から出る言葉は真逆のことばかり。これからはもっと素直になって感謝の言葉を、自分の口から言えるようになりたいです。

## 考え方が広がる留学へ夢

本間 小梅

磐田西高3年

私の夢は大学に進学し、海外に留学することです。私は英語が好きなので、将来流ちょうに話せるようになり、英語を使う仕事に就きたいと思っています。

留学したい理由は、英語や他国の文化を知りたいのはもちろんですが、それだけではありません。高校生になってもっといろいろな人と関わるようになり、多様な価値観や考え方を知り、自分と違う考え方を知り、うれしく思っています。人と話すときも、相手の気持ちを考えながら言葉を選んで話すようになりました。

みんないろいろな意見を持っているからこそ、ぶつかり合ってしまうこともあるけど、違う考え方を知れば考え方の幅が広がり、他人との関わりもうまく築けるのではないかと思いました。留学をして、さまざまな国の考え方や価値観を知り、考え方の幅を広げていきたいと思っています。

中日新聞

2022年4月28日

32HR

福田中出身

中日新聞

2022年5月6日

31HR

福田中出身

## 母の偉大さ気付き 感謝

溝口 紗季

磐田西高3年

私の母は天然でおもしろくて、いつも笑顔です。私はそんな母の事を、年の離れた友達のように感じていました。しかし、改めて母は偉大だと感じるようになりました。

私は一時期、家事を手伝っていたことがありました。やり始めたきっかけは、もう高校生になったということと、将来の事を考え不安になったからです。始めたといっても、全部をやっていたわけではありませぬ。料理だけ、洗濯だけという感じです。全部やろうと思っても一つの家事に時間がかかりすぎるのと、どうせやってくれると心のどこかで頼ってしまっているのです。

しかし母は私に、「ありがとう」といつも言ってくれました。私はその言葉のおかげで動けますが、改めて母には「ありがとう」の一言をかけていない事に気づきました。今は毎日感謝の気持ちを伝えていきます。母は本当に偉大です。

中日新聞

2022年5月12日

32HR

竜洋中出身



中日新聞 2022年5月14日

32HR 竜洋中出身

## 家族、友達、先生に感謝

鈴木愛梨杏

磐田西高3年

私は今、一日一日が幸せだと感じることが出来ます。それは、周りの人たちのおかげだと断言できます。

まず家族です。家族はいつも私を応援してくれます。悩んでいけば相談に乗ってくれ、落ち込んでいたら絶対に励ましてくれます。そんな温かい家族が私は大好きです。

次に友達です。私は友達と笑っている時に一番幸せを感じます。私の友達はやさしくて一緒にいると心が穏やかになります。だけど、勉強に対してはまじめな子が多く、テスト期間などはお互いに励まし合っ  
て切磋琢磨し合うことができます。

次に先生です。学校には優しい先生がたくさんいます。特に担任の先生はとても親身になって相談に乗ってくれます。励ましの言葉をくれたり、助言をしてくれて、悩み事はよく先生に相談します。私は周りの人たちのことが大好きで、いつも感謝しています。ありがとう。

中日新聞 2022年5月17日

33HR 周南中出身

## ジェンダー 視野広げて

鈴木 琳々

磐田西高3年

持続可能な開発目標（SDGs）の「ジェンダー平等を実現しよう」。この目標は女性や女の子を擁護しているように思える。女性は家事・育児、男性が力仕事をするといい風潮が残っている。看護師や保育士は女性が主流で、男性がなりたくてもためらってしまう職業もある。

生まれながらに体格や筋力は男女で差があるため、力仕事において男性が重宝されるのは仕方のないことだと思う。

SDGsの目標は、主に女性を擁護する目標になっていると思う。実際に6歳から11歳の子どもについて、一生学校に通うことができない女の子は、男の子の2倍とのデータがある。女性の権利は男性より少ない。しかし、「働くよりも家事がしたい」「保育士や看護師になりたいが、女性の仕事に入りにくい」という思いをしている人にも目を向けるべきだと思う。

中日新聞 2022年5月20日

33HR 向陽中出身

## 経済 サービス業が重要

岡本 啓吾

磐田西高3年

「持続可能な開発目標（SDGs）」の8番目の「働きがいも経済成長も」という目標に私は感心を持っています。経済成長や労働環境においての問題を解決する目標で、例えば不安定な経済状況やそれに伴う失業、雇用環境の悪化、ジェンダー格差などどれも重大なことだと思います。

私は将来、ホテルの料理人として働くことを目標にしています。この先の経済、働く人の状況には関心をもっています。経済活動が活発であればあるほど、サービス業は輝きます。サービス業が活発になれば、働く人たちも活発に活動できるようになります。

そうなれば、経済がさらに活性化し良い循環を生み出すことができます。この「働きがいも経済成長も」という目標達成には、サービス業が大きな役割を担っているのではないかと思う。





中日新聞 2022年7月7日

32HR 長田西中出身

## 遠距離通学 両親に感謝

小出 美咲

磐田西高3年

私は静岡市から磐田市の高校に電車通っています。たくさんの人から「なぜこんなに遠い高校を選んだの?」と聞かれます。私は部活動で高い目標に向けて頑張りたいという思いから、磐田西高校を選び、日々忙しい学校生活を送っています

この高校に進学できているのは、両親のおかげです。私が所属する剣道部では、防具や竹刀、部費にお金がかかります。電車で学校に通っているため定期代もかかります。一生懸命働いてもらったお金を私に使ってくれていることに、感謝しています。

時が過ぎて、いずれは私も成人して就職先で働く毎日過ごすこととなります。両親と同じように一生懸命働いて、そして今度は私が両親に恩返しをする番です。両親が高齢になったら介護もします。両親の子どもとしていられることを幸せに思っています。

中日新聞 2022年8月11日

15HR 竜洋中出身

## 自分の意見を持たねば

稲葉 絆那

磐田西高1年

私は将来、自分の意見を持てる大人になりたい。政治についても、何か一つの事件についても、自分の意見を持つということは大切なことだと思う。

インターネットが普及し、多くの人の意見が簡単に見られるようになったことに伴って、自分の考えが流されてしまう人が増えていると思う。流されずに自分の考えや意見を持つためには、正しい情報や知識を積極的に取り入れていくことが大切だ。

選挙の時に、自分の考えや意見を持って票を入れている人はどのくらいいるのだろうか。ネットで調べれば各党の目指していることはすぐに分かるのに、多くの人が何となく入れてしまっていると思う。

自分の住む国を任せる人たちを決めるのだから、各党の考えを知った上で投票するべきだと思う。自分の意見を持って生きていくために多くの知識を取り入れたい。

中日新聞 2022年8月13日

15HR 袋井中出身

## 母へ感謝のお弁当作る

角ヶ谷日菜

磐田西高1年

私は高校生になって、今まで以上に母に感謝の気持ちを伝えようと思っています。母は、平日は毎朝早く起きてお弁当を作ってくれます。これは私が高校生になってからではなく、ずっと前からお兄ちゃんと母自身の分を作ってきました。

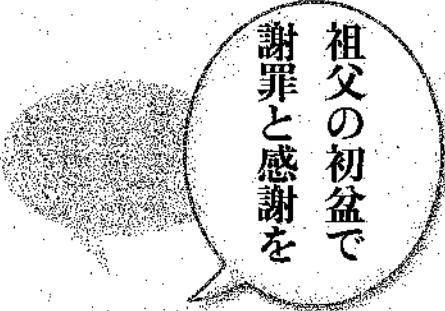
高校生になり母のお弁当を食べることが日課になりました。色とりどりで全て手作りのおかず。お弁当を食べるととても温かい気持ちになり安心できます。

毎朝作ってくれる母に感謝を伝えたいと強く思い、この夏休み期間に母とお兄ちゃんのお弁当を作ってあげようと決めました。料理をしない方なので、お弁当を作ることはかなり大変だと思います。お弁当作りの大変さがさらに身に染み、母への感謝の気持ちも強まると思います。はじめから上手に作れるとは思いますが、母が私のお弁当を食べた時に笑顔になるお弁当を作りたいと思います。



中日新聞 2022年8月15日  
16HR 豊田中出身

中日新聞 2022年8月19日  
13HR 城山中出身



## 祖父の初盆で 謝罪と感謝を

石岡 祐依

磐田西高1年

夏になり家の庭にたくさんの野菜ができました。この庭は、昨年の今頃亡くなった私の祖父の庭です。ガーデニングが好きで、毎日植物に水をやっている祖父の姿が、私は大好きでした。

亡くなってから1年が経った今でも、祖父がいないことが信じられない自分がいます。「またあの笑顔が見たい」。私は祖父が亡くなる前に冷たく接してしまったことがありました。話しかけてくれていたのに、私はスマホやゲームに夢中で軽い相づちくらいしかしていなかったのです。今それをすごく後悔しています。「大切なものは失ってから気づく」と聞きますが、本当にそれだと思いました。

葬式の時は頭が混乱していてそのことを謝っていなかったため、初盆の日に謝りたいです。感謝も伝えたいと思います。当たり前にある大切なものに気づけるよう、感謝を大切に生きていきたいです。

## 給食のありがたさ知る

大坪 光

磐田西高1年

高校生になって生活が少し変わった。中学生だったころが恋しくなる時がある。それは、お昼ご飯。

今まで学校で給食を用意してくれて、朝もゆっくり起きて学校に行けた。あの頃は嫌いな食材も出る給食が苦手で、「高校生になったら好きな料理だけをお弁当に入れよう。きっと楽しいだろう」。そんな幻想を抱き、母に「自分で弁当を作る」と宣言してしまった。

朝早く起きて、前日の食材や冷凍食品を入れ、卵焼きを作る。自分でお昼ご飯を作ることがこんなにも大変なのだ日々感じている。そう感じるたびに、給食センターの方々は、毎日大量の料理を作ってくれている。私は、栄養バランスなんてほぼ考えていなかった。給食センターの方々は本当にすごい。改めて、また給食に「ありがとう」と伝えたい。



中日新聞 2022年8月29日

13HR 神明中出身

## 苦しい時 家族が支えに

鈴木 心菜

磐田西高1年

みなさんにとって家族とは何ですか？  
そして家族とはどのような存在ですか？  
ころ問われた時、家族とは「自分と関わりの深い人」、「いつもそばで支えてくれるかけがえのない存在」と答えるだろう。

私が中学1年生の時、骨折を経験しました。最初は立つことや座ること、歩くことも1人ではできない状態でした。部活動や習い事、運動をすることが約2カ月間できませんでした。何もできない悔しさや悲しみであふれていました。

しかしそんな時に家族が支えてくれました。家族がいたからこそ前向きな気持ちになれたと思います。

苦しい時、つらい時、悲しい時に家族がいると、その気持ちをプラスに変えてくれます。家族がいることを当たり前思わず、家族の大切さを実感してほしいです。家族とは何かと問われたら、みなさんはどう答えますか？

中日新聞 2022年9月1日

13HR 豊田中出身

## 保育士の夢 努力の先に

宇野 萌倭

磐田西高1年

私の将来の夢は保育士になることです。私が通っていた保育園の先生たちが大好きで、母に会えなくてさみしい思いをしている時に優しく接してくれた先生の姿に憧れたことがきっかけです。

その夢に少しずつでも近づけるように、私は今まで多くのことに挑戦してきました。困っている人がいたら自分から声をかけることを心がけて、3歳から始めたピアノを高校生になった今でも続けています。夢をかなえるためなんだと自分に言い聞かせて、努力し続けることができています。

保育士は子どもたちを守る責任がある大事な仕事です。将来夢がかなったときに保育士なんだと胸を張って言えるように、常識あるきちんとした大人になりたいです。自分から率先して動くことをこれからの生活でも意識して、保育士になるために努力を続けていきたいです。

中日新聞 2022年9月6日

13HR 豊岡中出身

## 個性を認め合う世界に

青島 栞音

磐田西高1年

世界にはさまざまな形の「個性」が存在しています。その個性の定義や捉え方も人によってさまざまです。例えば、恋愛対象が異性の人と同性の人。どちらもその人の立派な個性で、どちらが普通というのはありません。さまざまな個性をもっと尊重するべきだと思います。

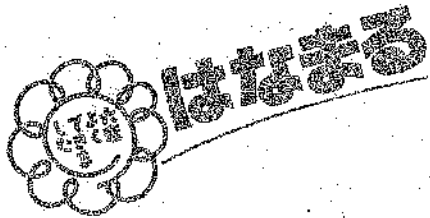
「あの子は人と違うから普通じゃない」と、自分の普通を他人に押し付け、その子の個性を軽視したり、からかうことはいじめです。そのようなことが日本でも起き続けています。

こうしたことが起こる背景は、他人の個性を尊重していないからだだと思います。違いを認め、理解し合うことが大切です。

このような考え方をする人が増えれば、世界はより明るくなるはずです。多様化する世界でしなくてはならないことは、「個性を尊重」することではないでしょうか？



中日新聞 2022年9月5日  
13HR 豊田南中出身



## あたたかいお雑煮

大塚 愛梨さん(豊田西高1年)

短い文を重ねると文章にリズムが出て気持ちも伝わります。いいね

祖母のお雑煮はいつもあたたかい。祖母はよく私にお雑煮を作ってくれます。私はそれが大好きだ。私が頼んだら、「しようがないなあ」と言っていて作ってくれます。私が部活で帰るのが遅くなったら、帰るまで待っていてくれる。一時間たつとおいしくなくなる」と言っていて作るのを待たせてくれる。私が食べるお雑煮はいつもあたたかい。祖母の気づかいがとてまう。もし、お雑煮が食べれなくなってしまったらと。祖母は、定年退職をする年齢を超えていているが、週五日働いている。とても大変そうだが、私は、祖母が体調を崩さないかを心配している。もし、崩してしまったら祖母のお雑煮を食べれなくなってしまう。祖母のあたたかい愛情を感じなくなってしまう。だから、私は、祖母に料理を学ぼうと思った。私ができるようなになったら少しでも楽できると思ったからだ。私は、あたたかいお雑煮を作れるようになりたい。

想像が広がるタイトルでいいね



先に結論を書くと文章が力強くなります。いいね

## 祖母と互い思う姿 心に浮かぶ

読むと、参考になる気がします。

読みやすさで言えば、場面転換する時などは改行した方がいいですね。

最後の「料理を学ぼう」という大塚さんの思いは、おばあさんのお雑煮のように温かく、仲良く台所に立つ姿が心に浮かびました。

自由に書く作文では、最初に目がいけるタイトルも大切な要素です。「あたたかいお雑煮」は、誰が作ったのかなどか、どんな味なのかなあとか、文章を読む前から想像が膨らみます。読み手を引きつけるすてきなタイトルでしたね。

大塚さんとおばあさんの互い



林浩樹 編集局長

を思いやる気持ちが、よく伝わってきました。詩のように短い文を重ねていく書き方は、文章に力強さやリズム感が生まれます。ただ、そればかりだと単調になりがち。少し長めの文をはさんだ方が、文章に広がりが出て読みやすくなると思いますよ。興味がある人のエッセーを



中日新聞 2022年9月10日

13HR 城山中出身

## 女性が働きやすい社会

嶋 香帆

磐田西高1年

学校の授業で、男女差別について考える機会があった。昔から「男は仕事、女は家事・育児」という意識が日本人の中に根強く残っている。そのため日本の女性は、結婚や出産を機に仕事を辞めて、家事や育児に専念する人が多かった。

しかし近年では共働きが増えてきている。その背景には、労働時間の短縮、育児や介護の休業制度、有給休暇を取得しやすくするなど職場の改善があったからだろう。これらは私たち女性にとってとても有益なことだと思った。

私は将来警察官になりたい。そのため女性が働きやすく、活躍できる職場であることを重要視している。これから先もっと職場が改善されていけば、共働きをする人が増えてくると思う。これまで社会進出することができなかった優秀な女性たちの活躍で、日本が変わる日が来るかもしれない。

## 空港勤務 夢に向け努力

堀川 そら

磐田西高1年

私の将来の夢は空港で働くことです。祖母が北海道に住んでいて、小さい頃から家族で遊びに行っていました。私はそのたびに、空港で働く女性に憧れを抱き、「空港で働きたい」と考えるようになりました。

私は祖母の家に行くことが決まると、他の事も一生懸命頑張れたり、行くたびにとても楽しく過ごすことができました。「そら」という私の名前は、空が好きな父が、空に関係する仕事をしていることに由来します。私は空に縁があると考えて、最近では外国の映画やドラマを見て外国語を勉強しています。

空港で仕事をできたら、私と同じように良い思い出になったり、他のことを頑張るモチベーションにつながるお客さまがいたらいいなと思い、勉強しています。空港での仕事を得るのは、簡単にできることではないですが、頑張りたいと思います。

中日新聞 2022年9月19日

16HR 豊田南中出身

玄関にツバメ  
毎日興味津々

柴田 偉央

磐田西高1年

僕の家には3年前からツバメが玄関に巣をつくり、春から夏まで家の玄関を出入りしています。僕は鳥が好きなので家に巣を作るだけでもうれしかったです。しかし、野生の生き物なので直接世話をすることができません。毎日、ふんなどの掃除も大変ですが、毎日見ることができて僕はとても幸せな気持ちになります。

ツバメは巣をつくった次の年も、同じ場所に戻り昨年の巣を使います。それはとてもすごいことだと思いました。短い期間しかそこに住んでいないのにもかかわらず、家の位置を正確に覚えて戻ってきます。そんなツバメの本能を身近に感じると、人間と比べ興味が出てきます。他にも、ツバメの子どもは親の声が聞こえると口を開けます。そんなツバメの能力を身近に感じられることも、うれしい理由の一つです。

中日新聞 2022年9月10日

13HR 桜が丘中出身



中日新聞 2022年10月6日

16HR 磐田第一中出身

## 家族のありがたみ 感謝

白井侑太郎

磐田西高1年

私は1学期の家庭科の授業で家族の大切さを感じました。朝起きたら朝食が用意されていて、服が洗濯された状態にあり、スイッチを押せば電気がつきます。そんな生活が当たり前だと思っていました。

しかし家庭科の授業の時、どれだけ自立ができているかを確認するチェックシート「自立の木」に書き込むと、ほとんど埋まりませんでした。いかに家族に支えられられて生きているかを実感しました。

一人暮らしをしている人に「楽しいか」と聞くとそろって、「大変だ」「帰りたい」と、明るい話よりも苦労話の方が多く出てきます。進学と同時に一人暮らしをしたいと考えていましたが、今の状態では1年どころか3日も大変だと思います。週1回お弁当を作ってみたり、洗濯物を畳んだり、自立に向けて努力し、感謝の気持ちを今よりもっと伝えていきたいと思います。

中日新聞 2022年10月10日

16HR 福田中出身

## 高校生活 自立がテーマ

森 美羽音

磐田西高1年

今年の4月に高校生になりました。しかし学校では、もう次の進路について決めることが多く、ぼんやりとしか考えていなかった私は自分の将来の生活を思い浮かべました。今のままの私では親に頼りすぎていて、進路の前に生活できるかどうかすら危うい状況です。そこで高校生でできる自立について考えました。

まず自分も「家族を構成している1人だ」と考えることです。身の回りのこと、部屋の管理はもちろん、家族のことまで何かをできることが大事だと思いました。

次に親に頼るのではなく、コミュニケーションを取ることで、自立と言っても周りとの協力することは大切だと思うので、困ったら相談したいと思いました。

3年後、多くの面で「自立」ができるように、自分で考えこの高校生活を過ごしていきたいと思います。

中日新聞 2022年10月17日

13HR 城山中出身

大川原杏美

磐田西高1年

私はどんな人なんだろう？ 普段の生活の中でそんなことを考えている時がある。私は小さい頃、おとなしくて人に流されてばかりで、自分を持っていなかった。人からどう思われるのかが怖くて、本当の自分をさらけ出すことができていなかったのだと思う。

しかし、ある友達との出会いで私の見る世界は180度変わった。その友達はいつでも前向きで何事にも全力、そして周りの人を笑顔にしてどんな状況でも良い方向へと変えることができる。

私は自分のはっきりある彼女のことをとてもうらやましく思った。いつも笑っていて自分らしくいられる。そんな自分が好きになった。

今、私は明るく楽観的な性格をしている。そんなところも前向きなところも、やる時には頑張れるところも、全て自分。無理に良い姿でいようとせず、自分に自信を持って日々努力できる。そんな自分でいたい。

自分らしく自信持って



中日新聞 2022年10月28日

16HR 城東中出身

## 五つの自立意識し生活

青野 玲香

磐田西高1年

高校生になって生活が大きく変わりました。初めての電車通学。中学の時とは比べものにならないくらい活動が多い部活動。びっくりするくらい早く進んでいく授業。通学に時間がかかる私にとって自分自身としっかり向き合う時間はなかなかありませんでした。

高校生になって一歩大人に近付いた私は自立できていると思っていました。しかし、家庭科の授業で自立には五つの自立があると知り、自分自身を見つめ直すと、全く自立できていないことが分かりました。

当たり前のように食事を作ってもらい、洗濯をしてもらう毎日。自分の意見をはっきり言わないところ。将来の夢がはっきり決まっていないところ。五つの自立からかけ離れている自分がいました。

自分を支えてくれているたくさんの人に感謝したいです。

中日新聞 2022年11月4日

15HR 浅羽中出身

## 多様性 認め合う社会を

小林 未南

磐田西高1年

「みんな違ってみんないい」。人それぞれ個性や考え方があります。しかし、それが差別やいじめの原因となってしまうこともあります。嫌われることを恐れ、自分の個性を隠し、生きづらさを感じている人もいるのではないのでしょうか。

みんなが生きやすい社会とはどんなものなのでしょうか。

私は周りの目を気にせず、好きなものは好きと言える環境が、生きやすい社会だと考えています。そんな環境をつくるにはまず多様性を知ることが大切だと思います。

さらに違いを認め合うことができれば、みんなが自分の個性を隠さずに生きることができると考えました。インターネットを使って、自分と違う考え方の人を見つけたり、さまざまな世代の意見にも目を向けるなど、多様性を知りお互いを尊重し合うことが、私たちには必要だと考えます。

## バレーに挑戦 得た感動

中日新聞 2022年11月12日 戸塚 一希

15HR 浅羽中出身

磐田西高1年

僕は高校1年生になって、今までしたことがないことに挑戦するようになりました。自分は何が好きで、どんなことが得意なのかを知り、将来に生かせるらいいと思ったからです。

高校に入り、新しいことに挑戦したいと思った僕は、中学までやっていた卓球をやめ、思い切ってバレー部に入部することにしました。バレーについてほとんど知らず不安でしたが、初めて生で見る先輩たちのバレーがとても格好良く魅力的に見えて感動しました。練習していく中でバレーという競技の楽しさや奥深さ、難しさがだんだん分かっていくことにも感動しました。

この感動や発見は、僕が新しいことに挑戦しようと思わなければ得ることのできない体験でした。これからも全力で楽しみ、またバレー以外にもたくさん挑戦して成長していきたいです。



中日新聞 2022年11月25日

13HR 豊田南中出身

## 未来へ 最高の通過点に

鈴木 来明

磐田西高1年

春からスタートした高校生活。高校生になって私は将来どうするのかを考えるようになりました。大人になるあと一步のところに来ていると考え、自分のなりたい職業を探しそれに向かって努力する必要があります。そのために日々、勉強、スポーツを全力で取り組み、常に自己記録を更新できるようにしています。

高校生活は今後の人生を大きく変えるものであり、努力次第で全てを変えることができるので、その瞬間がとても大切です。ここでの努力が、夢に向かって羽ばたくためのものになります。

今は人生でとても大きな通過点であるので充実した生活を送ることができるようにしたいです。そして何十年も先の自分が「あの時頑張っていて良かった」と後悔なく思うことができるように、笑顔で卒業して全力で挑戦できる人間になりたいです。

中日新聞 2022年12月8日

13HR 磐田第一中出身

## 子ども苦手だったけど

石川 真帆

磐田西高1年

私は子どもが苦手だった。泣いて、叫んで、駄々をこねるといった印象が強かったからだ。だが、中学2年の時に幼稚園を訪問し、3歳児と交流して、抱いていた悪い印象が良い印象に変わった。

おもちゃは順番を決めて使い、けんかしたら素直に謝ることができていた。大人でもなかなかできない謝るという行為を、3歳の子どもははじめても簡単にしていた。

周りをよく見ていたら、おとなしく親と一緒に歩いたり、元気よくあいさつをしてくれたり、電車で大人に溶け込んできちんと座ったりしている子どもが多くいることに気付いた。

子どもは感情を素直に表に出すため、大きな声で泣きわめき、周りの人に迷惑かもしれないが、反対に子どもがうれしそうにしていると周りを幸せな気持ちにすることができる。子どもたちは周りや影響し合いながら、成長していくのだと思った。

中日新聞 2022年12月22日

12HR 周南中出身

## 心込めたあいさつ意識

鈴木 栄耶

磐田西高1年

私は人とコミュニケーションを取ることが得意ではありません。何を話せばいいのかかわからず緊張気味になり、後悔ばかりを胸に残したまま会話を終えてしまいます。

しかし東京研修で、ディズニーリゾートのキャストの方の講話を聞き、実際に働いているところを見ることでコミュニケーションに対する意識が大きく変わりました。キャストの方々は相手を意識し心を込めたあいさつ、親しみやすい笑顔、言葉遣い、相手と目の高さを合わせることも含めたアイコンタクトを大切にしていると学びました。これらは相手を思いやることでできる行動であり、人々の役に立ち、幸せにするビジネスに共通することに気づきました。

コミュニケーションは、形はさまざまですが社会に出ても必要不可欠です。まずは心を込めたあいさつを意識し、信頼される大人になります。





中日新聞 2022年12月27日  
13HR 磐田第一中出身

## 自己を愛し より高める

クルーズ・アニカ・リーン

磐田西高1年

みなさんは、「セルフラブ」をご存じですか？ セルフラブとは、自分を愛するという意味をもちます。今、私たち高校生にとって一番必要なことであり、自分の良いところを見つけ、自己肯定感に挑戦するチャンスでもあります。

高校に入り、勉強や部活動でうまくいかない時が増えたため、ストレスがたまったり、自分ばかりを責めてしまい、ネガティブな気持ちになることが多くなりました。自分のことが嫌いになって、自分の悪いところにしか集中できなくなることがあります。そのため自分の悪いところも受け止めることが、セルフラブの第一歩です。

自分を好きになることにより、自信もてるようになったり、前向きな考え方に導いてくれると思います。今まで知らなかった自分の一面を知ることができ、より良い人になることができると思います。

中日新聞 2023年1月19日  
22HR 竜洋中出身

## 自分が料理 試行錯誤中

加藤 侑汰

磐田西高2年

今まで母に家事を任せていた。最近は母が仕事の責任者になり、帰りが遅い。そこで僕が料理を作ることになった。

料理はまったく作ったことがない僕が初めて作ろうとした料理はオムライスだ。卵を使ってうまくオムレツの形にしようとしたが、目玉焼きになった。そしてロコモコができた。卵料理はあきらめようと思う。

次は、映画「天気の子」で見たポテトチップスを入れたチャーハンを作ってみた。お菓子だろうが主食だろうが食べてしまえば、みな仲間理論の僕の美学が実を結んで、うまくポテトチャーハン、略して「ポテハン」が完成した。

両親が帰ってくるまでに他の家事も済ませようと、風呂掃除、洗濯物の作業を終わらせた。毎日、母はさらに食器洗いや洗濯物干しまでこなしている。誕生日や母の日には、母をねぎらい、祝い、感謝したい。

中日新聞 2023年1月30日  
12HR 城山中出身

## やさしい心 広がる幸せ

鈴木 芭奈

磐田西高1年

人は生きていく上で、必ず誰かに支えられています。自分1人で生きていける人はいません。人は誰かと支え合い、協力し合っています。社会の中でお互いが幸せに過ごしていくためには、相手のことを考え思いやる心が大切だと思っています。

私は、この思いやりの心をもつことのすばらしさを知る経験をしました。「夢の国」として知られる東京ディズニーランドに行ったことはありますか？ この場所では、常に相手のことを思いやる心であふれています。この心がたくさんあるからこそ、私たちゲストはいつも笑顔でいることができるのだと思います。ゲストに対してだけではなく、キャスト同士でも思いやりのある心があふれています。

社会に出ていく中で大切なことは、相手に思いやりの心を忘れずに接することです。幸せが広がるよう心掛けます。



中日新聞 2023年2月3日

14HR 城山中出身

## 進学の原因 見つめ直す

袴田 陸斗

磐田西高1年

私が大学へ行こうと思った理由は「就職に大卒という肩書が必要」と考えていたからです。しかし、今回の研修でこの考えが間違っていることを知りました。

大学研修の講師の方がこんなことを言いました。「これからは人手が少なくなるから、就職率はなくなる」。この言葉を聞いて、なぜ大学へ行くのか分からなくなりましたが、今回の研修を通して自分なりの答えを見つけることができました。

企業で働く方々の話を聞いた時、全員がコミュニケーションを大切にしているように感じました。大学では今より多くの人とのコミュニケーションが必要になります。専門的な知識を学んで将来に役立てることもできます。

コミュニケーションや新たな学びを得るためなど、進学の意味を見いだすことができました。

中日新聞 2023年2月11日

14HR 磐田南部中出身

## 思いやりの接客に感動

武田 結妃

磐田西高1年

「タグ、お切りしますか？」  
混み合っただけの空間の中、私は顔を上げた。笑顔が目の前にあり「よく疲れないなあ」と感動しながら、私は少し気を使って大丈夫ですと答えた。こんなに混んでいる状況でそんな気遣いまでしてくれるなんて思ってもいなかった。他のレジにはぬいぐるみが形崩れしないように工夫して置かれていたり、ゆったりとした口調で焦らないように声をかけたりしている店員さんが見て取れた。

「ディズニーアカデミー」で気遣いの大切さを学んでいたが、レジ打ちという仕事は人が並ぶほど焦るだろう。「待たせてはいけない」という責任感もあるし、多くの来場者がいるディズニーならなおさらだ。

笑顔絶やさず丁寧な対応を崩さないのは、仕事だからではなく思いやりなのだろう。私も丁寧に接する人になりたい。

中日新聞 2023年2月6日

16HR 袋井中出身

安東 結衣

磐田西高1年

私は将来、心理学を学んで学校や企業のカウンセラーになりたいと思っています。私は今回の研修で学んだことがあります。それは心理学はさまざまな分野と組み合わせることができるということです。

東京都にある産業能率大学を訪問しました。この大学は情報マネジメント学部という情報と何かを組み合わせることで学ぶことのできる特色のある大学です。学生の模擬授業を受けました。私が受けた授業は、「情報×心理学」でした。

全く結びつかないと思っていましたがグラフを使って性格診断の結果をまとめることで、統計から性格を読み取り、その人の強みや補っていきたい部分などを知ることができました。自分が想像していたよりも大きく結びついているのだと感じました。他にも、ディズニーランドのキャストは、相手がどう感じるかを考え、表情や声のトーンに生かしていることを知りました。今回の東京研修で、自分の将来への視野が広がりました。

将来はカウンセラーに



中日新聞 2023年2月16日  
14HR 浜松東部中出身

## 身だしなみ 相手のため

鈴木 日菜

磐田西高1年

東京への研修旅行で、今まで自分が単純だと思っていたことが何よりも重要なことだということに気がつきました。それは身だしなみです。

私は今まで先生たちに注意されないようにしていれば良いと思いながら生活してきました。しかし、東京の有名な企業を訪問したり、講話を聞いたりしていく中でその考えは変化していきました。身だしなみとは、自分ではなく相手のことを考えて行うものだ気づいたのです。

対面で会ったり、実際に話をしたりする時に相手に不快感を与えないために守るものなのだと、過ごしていく中で感じる事ができたのです。校則で決められている制服の着こなしなどの規則について考えることができたからです。今回の体験で気づくことができた身だしなみの本心を心にとめて生活していきます。

中日新聞 2023年2月21日  
21HR 神明中出身

## 優しい祖母に恩返しを

傅野 未結

磐田西高2年

私の祖母はいつも元気でよく動き、70代になった今でも働いている。祖母は私の自慢だ。

そんな祖母が先日けがをした。大きなけがだったらしく、手を手術することになった。私はひどく心配した。これまでも祖母の手伝いをしてきたが、他に助けられることはないのか、今まで以上に祖母の手伝いをするようにした。

私は祖母のけががあってから気付いたことがある。それは、きっとこれからもっと難しくなることが増えていくのだろう。だから私が祖母の役に立てるようになろうと誓った。いつも優しく出迎えてくれてたくさんのお話をしてくれる祖母に、今度は私が恩返しをしよう。行きたいと言う場所には、私が連れて行きたいと思うようになった。

いつまでも元気でいられるように、昔も今もこれからも。

中日新聞 2023年2月20日 磯部 葉那  
22HR 周南中出身

磐田西高2年

私の祖母は8年前に亡くなった。祖父と母が交代で病院に行き、介護をしていた。当時私は小学3年生。何も手伝うことができず、ただぼーっと病室からの景色を眺めているだけだった。日に日に衰えていく祖母を見ることしかできなかった。

そんな私が家庭科の授業で高齢者を支えるという題材を学習して、「あの時どうしていればよかったのか」を考えた。例えば高齢者が健康で自立した生活を送るためには、全ての動作を手伝ってはいけない。がんばっているところを見守るのも大切だということも知った。全て手伝ってしまうと介護する側の負担が大きくなってしまう。

私の母は、頑張りすぎて疲れていたように思う。そんな人が周りにいたり自分が頑張りすぎていると感じたら、一人で背負わないで介護を分担したり、サービスを利用することも大切だと思う。深刻な事態になる前に「がんばらない介護生活」を呼びかけたい。

「頑張りすぎない介護」大切



## 祖父母への尽きぬ心配

大矢 穂世

磐田西高2年

私は祖父、祖母、母と4人で暮らしています。家庭科の授業で気づいたことですが、今の時代、祖父母と暮らしている人はとても少ないようで、私のクラスは核家族世帯が大多数です。高齢者について習ったことを踏まえて、少数派の私が普段感じることを伝えたいです。

ものづくりが好きなおじいさんは世の中案外多いと思います。私の祖父もそうで、古くなった家の屋根やドアの修理をしています。その風景は見ているだけで怖いと感じます。祖父は80歳を過ぎているのに、平気で屋根や脚立に乗ったりしています。

先日も、玄関で脚立に乗っていました。私は「気を付けて」と言いましたが、祖父はさぞ当たり前と言った口調で「気を付けてるさーね」と言いました。祖父母との日常は、心配が尽きません。安全に元気で過ごしてほしいです。

中日新聞 2023年3月2日

22HR 磐田南部中出身

中日新聞 2023年3月20日

21HR 袋井中出身

見上げれば  
星々の輝き

三隅 菜鈴

磐田西高2年

学校からの帰り道。随分と早くなった日の入りにより、車のヘッドライトがまぶしいが、目先の道は暗い。そんな中、ふと視線を上げるとその夜空の明るさに驚いた。

私が知るより多くの星が輝いている空は、私が思うより多くの色があった。特に印象的だったのはちょうど天辺、視界の真ん中に捉えただいだい色の星。見えている星の中でも一等大きく、強く真っすぐ光る名前も知らない星に、どこか懸命さを感じてほほ笑ましく思った。

他にもよく目を凝らせば見えてくる小さな星や、なぜかぴかぴかと点滅して見える星、われ関せずといった調子で一定に光る星などがあって、星にもここまで個性があるということ面白く思った。

唯一知っていると言っても過言ではないオリオン座も見つけることができ、夜空とはここまで楽しいものだったのかと思い直した。

きっとこの日に空を見上げなければこんな思いを抱くこともなかっただろう。足を止めるのも案外悪くないのだと思えた。

## 近づく家族から巣立ち

鈴木陽菜紗

磐田西高2年

小学生のころから憧れていた17歳。もうすぐ私は18歳になって、できることもやらなければいけないことも増えます。この17年間は毎日家族と一緒にでした。「おはよう」から始まって「おやすみ」まで。

私は高校を卒業したら進学のために家族と離れて暮らすことになります。一緒に生活できるタイムリミットが着々と近づいています。小中高と家族に関わる授業が何度かあり、そのたびに「毎日一緒にいすぎて雑になっている、大切にしていかなければいけない」と思っていました。でも時間のリミットが見え始めている今、この思いが強くなっています。

行きたい場所に連れて行ってきて、毎日ご飯やお弁当も作ってくれて、自慢をすると必ず褒めてくれて。すごく充実した17年間だったと思います。これからも温かい人たちにたくさん出会いたいです。

中日新聞 2023年3月7日

22HR 豊岡中出身



中日新聞 2023年3月25日

22HR 磐田第一中出身

## 祖母との交流 姉を尊敬

神谷 咲絵

磐田西高2年

授業で高齢者について学びました。私の祖母も高齢者と呼ばれる一人です。祖父が亡くなってからは一人で暮らしています。「あちこち痛い」と言いながらも、自分のことは自分でできてまだまだ元気です。一人暮らしをしている私の姉と毎週のように出かけていて楽しそうです。

高齢者と接する上で大切なことは、手助けしすぎないことだそうです。一人の人間ですから自尊心を大切にされるのは当たり前のことだと思います。一方的な評価による高齢者差別を「エイジズム」といいます。

これを考える上で尊敬できるのが姉です。姉は親戚と接する時も明るく、程よく手助けができます。コミュニケーションがうまく取れ、エイジズムなんていう言葉を感じさせません。差別について考えなくてもよい社会になるのが一番だと思います。姉も祖母も等しく大切な家族です。

中日新聞 2023年3月27日

22HR 城山中出身

## 部活 私たちが引っ張る

水谷 早苗

磐田西高2年

昨年秋、3年生が引退しました。私が所属するサッカー部では、4月のインターハイで引退する人と10月の選手権まで残る人がいます。選手権まで一緒だった先輩たちも秋にはいなくなっていました。部活外でも遊ぶほど仲がいい先輩を頼ってばかりだったから、これからの部活を私たちでちゃんと引っ張っていけるのか不安でした。

10月、11月の間は「やっぱり3年生がいないとだめ」と思うことが何度もありました。今はだんだんと2年生が中心となって部活全体が良い方向に向かっているように思います。選手は公式戦のメンバーに入るために、以前より自主練に励む人が増えました。マネジャーは人数が減ったぶん一人一人がさらに動けるようになってきました。

チームは目標の県ベスト16を目指しています。私たちがいなくなった時に、後輩に寂しがってもらえるような成果を、この1年で残していきたいです。